

1. 受け継がれた魅力

文化的資源としての価値

国指定史跡名勝指定

①藩主斉昭による園の創設

創設者である斉昭が借楽園記碑に残した作庭思想

- ・先進的な庭園
- ・千波湖, 拡張部も含めた大スケールな庭園
- ・人工二分, 天然八分の巧みな造園技術
- ・陰陽体験(表門から入り, 好文亭へ)

②「近世における公園の濫觴」といえるもの

- ・藩主だけの遊び場ではなく,
全く近代の公園として衆と借に楽しむ目的で造園

③敬老の式典を含めた園の一般公開

- ・藩の老人を集め祭事
- ・藩民に自由に利用(一般公開)

④梅林の多目的意味

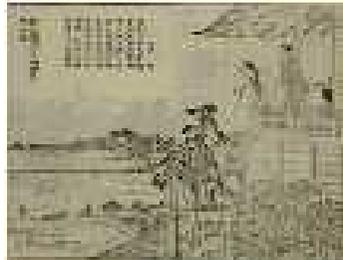
- ・春一番最初に花咲く先見性の象徴
- ・有事の軍用貯梅 ・学問の木



景観的資源としての価値

①千波湖八景

②水戸八景



2. 魅力向上に向けたコンセプト

借楽園の思想

学びと休息
風景に触れ
季節を感じ
共に楽しむ

検討の方向性

風景の保全・育成

APに基づき実施される
個々の取り組みが
風景を棄損することが
ないよう、最大の配慮

コンセプト

本質的価値(文化的・景観的資源としての価値)を通じて、
あらゆる人々が学び, 楽しみ, 癒される場

方策

- ・借楽園の思想の共感と継承
- ・エリアに共通したコンセプトによるトータルコーディネート
- ・ホスピタリティの提供
- ・魅せる風景&体験の場の提供

“借楽園の思想”

新しい発見
(啓発)Inspire

新しい生活像
(リフレッシュ)Healthy

新しい事業展開
(産業)Innovate

目指すべき姿

- ・日本を代表する通年型観光地
- ・県民の豊かな生活を体感できる公園

3. アクションプラン (案)

■ホスピタリティの提供

- ・お客様をお迎える精神
- ・精神に基づく行為
- ・行為に発生する関係性

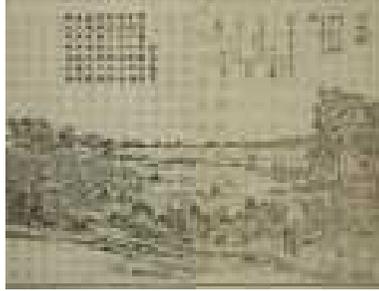
コト消費・情報発信
ボランティアガイド育成
飲食休憩の提供



■風景の保全、形成

①造園技術の訴求

- ・千波湖、緑ヶ岡等自然のままなる山水を取り込んだ大公園
- ・人工二分，天然八分の庭園で誠に巧妙な近代の造園技術，自然物を利用した借景



②統一されたデザイン

- ・フォントやデザインなどのルールづくり
- ・この地域で活動する事業者も含めて徹底した景観調和

■歴史的建造物を復元し案内・飲食提供

- ・好文亭以外の拠点づくり
- ・竹林の梅などポテンシャルを活かした景観
- ・顧客に求められるサービスの提供



■眺望ポイントでの休憩所 飲食の提供

- ・好文亭の積極的な利用、見晴らし広場の活用

好文亭耐震改修



呈茶サービス



<歴史館>

- (1)展示リニューアル
- (2)カフェレストラン設置

<弘道館>

- (1)借楽園との連携強化
- (2)「水戸藩の学校」としての体験
⇒ガイダンス・展示改修

<本園>

- (1)カフェや食事機会を整備
- (2)朝および夜の限定解放等
⇒朝ヨガ・ディナー・結婚式
- (3)顧客への情報提供の充実

<月池周辺>

核となる集客拠点誘致

<四季の原>

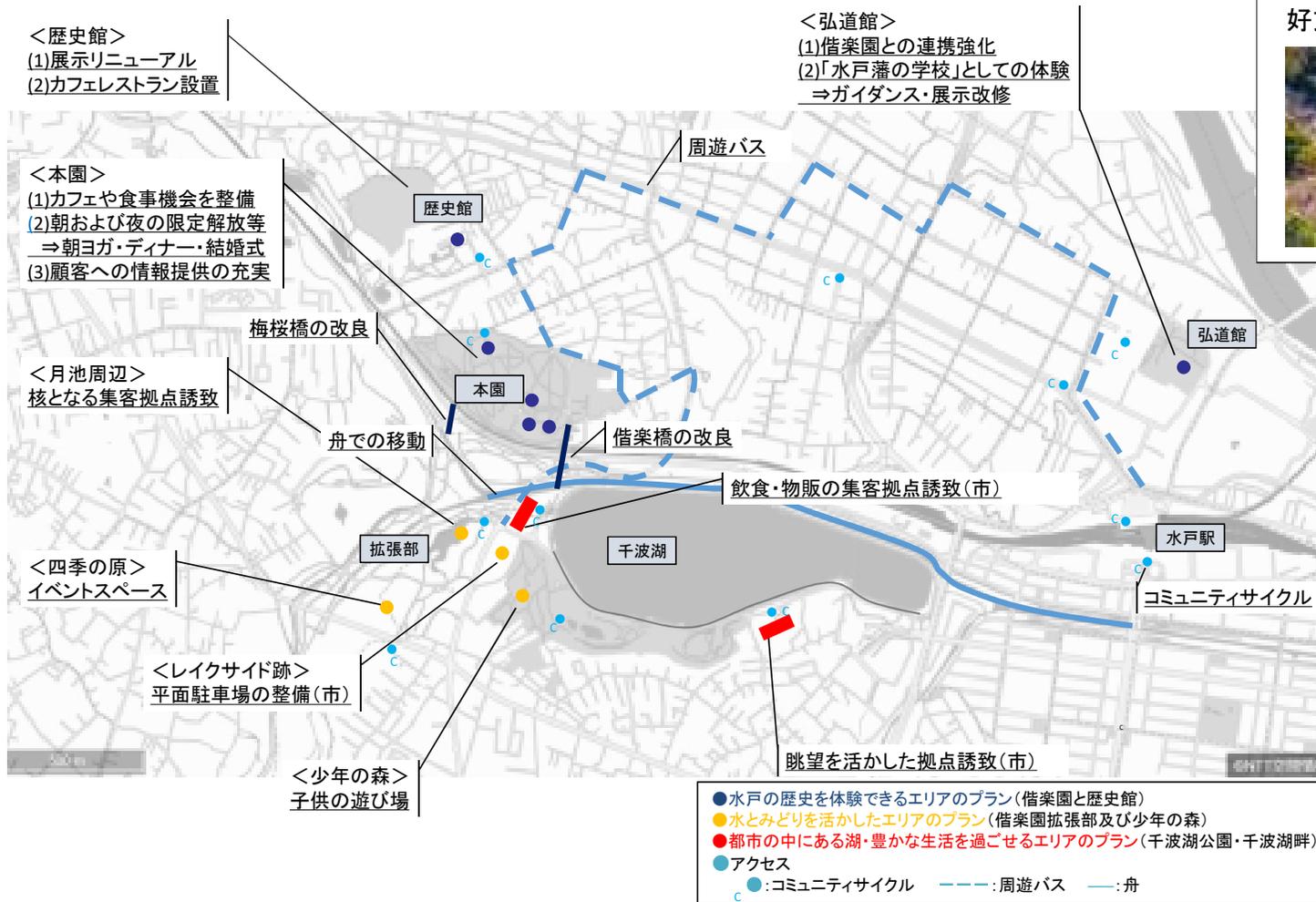
イベントスペース

<レイクサイド跡>

平面駐車場の整備(市)

<少年の森>

子供の遊び場



■ (拡張部) 身近な非日常を楽しむ施設

- ・本園や水とみどりの風景を堪能できる拠点
- ・本園イベントの代替拠点 (雨天)
- ・本園・まちなかへの利用者誘導
- ・民間事業者の資金活用 ・民間運営



■その他

千波公園 民間誘致
水戸駅までのアクセス向上
宿泊施設の誘致など